

保育の表現指導を豊かにする「歌のしかけ絵本」に関する研究

東 ゆかり（初等教育学科・教授）・薩摩林 淑子（初等教育学科・准教授）

山成 美穂（初等教育学科・准教授）・長谷川 麻実子（鎌倉女子大学幼稚部・教諭）

I. 研究の目的

本研究は、保育者養成課程の授業「保育内容演習表現」で行っている「歌のしかけ絵本」の制作とそれを用いた表現活動について、手作りの「歌のしかけ絵本」を学生が保育現場において実践し、その活動をビデオ撮影・写真撮影して詳細に分析・検討するとともに、この実践を子ども達と共に見る保護者へのアンケート調査・保育者へのインタビュー調査も合わせて行い、「歌のしかけ絵本」の子どもにとっての表現教材としての有効性、教育効果や意義・発展性を検討することを目的としている2年間の共同研究である。

2017年4月より取り組んできた本研究においては、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』をふまえたうえで、まず、授業「保育内容演習表現」実践の教育的意義・有効性・課題・展望の検討を行った。研究の結果、この表現活動は、学生（保育者）の資質を高める表現指導の一つであることが確認された。

そこで2018年4月からの本継続研究においては、「歌のしかけ絵本」の子どもにとっての表現教材としての有効性、教育効果や、意義・発展性の検討を行った。

II. 研究概要

1. 2018年度の研究概要

- (1) 鎌倉女子大学幼稚部たんぽぽクラス（未就園児クラス）において、学生が「歌のしかけ絵本」の実践（演奏発表）を行った。実践をビデオ撮影・写真撮影し、図工的側面、音楽的側面からのビデオ分析・画像分析を行うとともに、実践学生へのインタビュー調査、たんぽぽクラス保育者へのインタビュー調査、たんぽぽクラス在籍児保護者へのアンケート調査を行った。
- (2) 2歳児の発達段階に即した「歌のしかけ絵本」の表現教材としての有効性、教育効果や意義、発展性に関して、検討・考察を行った。
- (3) 「国際子ども図書館」において、「歌のしかけ絵本」に類似する児童向け教材（手作り布絵本、しかけ絵本、紙芝居等）に関して調査を行った。

2. 2019年度の研究概要

- (1) 日本保育学会において研究発表を行った。
- (2) 鎌倉女子大学幼稚部において、学生が「歌のしかけ絵本」の実践（演奏発表）を行った。実践をビデオ撮影・写真撮影し、図工的側面、音楽的側面からのビデオ分析・画像分析を行うとともに、実践学生へのインタビュー調査、幼稚部教諭と園長へのインタビュー調査を行った。
- (3) データの整理・分析を行い、2年間の調査・研究をふまえて「歌のしかけ絵本」の

子どもにとっての表現教材としての有効性、教育効果や意義・発展性を検討した。

Ⅲ. 2019年の成果報告

1. 保育学会における研究発表

「歌のしかけ絵本」の表現教材としての有効性に関する研究 —保育者養成校の学生による未就園児親子クラスでの実践を事例に—

○ 山成美穂(鎌倉女子大学短期大学部)
薩摩林淑子(鎌倉女子大学短期大学部)

東ゆかり(鎌倉女子大学短期大学部)
長谷川麻実子(鎌倉女子大学幼稚部)

1. 研究の目的

保育者養成課程の授業「保育内容演習表現」において制作及び実演発表している「歌のしかけ絵本」の活動を、多角的な観点から分析・考察し、「歌のしかけ絵本」の表現教材としての有効性、教育効果や意義・発展性の検討を目的としている。平成29年4月より取り組んでいる本研究では、『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』をふまえたうえで、授業「保育内容演習表現」における実践の教育的意義・有効性・課題・展望の検討を行った。その結果、この表現活動が学生(保育者)の資質を高める表現指導の一つであることが確認された。平成30年4月からの継続研究では「歌のしかけ絵本」の子どもにとっての表現教材としての有効性、教育効果や意義・発展性の検討を行う。

2. 研究方法

鎌倉女子大学幼稚部たんぽぽクラス(未就園児クラス)において、学生が「歌のしかけ絵本」の実践(演奏発表)を行う。実践をビデオ撮影・写真撮影し、図工的側面、音楽的側面からのビデオ分析・画像分析を行うとともに、実践学生へのインタビュー調査(表1参照)、たんぽぽクラス保育者へのインタビュー調査(表2参照)、たんぽぽクラス在籍児保護者へのアンケート調査(表3参照)を行う。調査・分析結果をもとに、発達段階に即した表現教材及びその有効性について検討する。

3. たんぽぽクラスにおける実践Ⅰと考察

日時:2018年9月20日(木)11:50~12:10

実践者:初等教育学科Aさん「山の音楽家」、Bさん「おもちゃのチャチャチャ」
対象と内容:たんぽぽクラスの子ども(2歳)17名とその保護者18名の前で、導入の話をしてから、ピアノ伴奏に合わせて「歌のしかけ絵本」の歌い聞かせを行った。

◆実践Ⅰの考察

〈実践者の視点から〉

Aさんの絵本は、歌詞、絵と子どもに分かりやすいという意図から大きめにしている。導入では楽器について問かけ、実践では歌詞に合わせ楽器を弾く動作を行った。子ども達からは多くの反応が来てきて体を揺らしながら聴いていたことから、良い反応が得られたと分かった。Bさんの絵本は子どもが触れることを意図し、フルート素材を多用、おもちゃの楽器も付けた。導入ではおもちゃについて問かけ、実践では歌詞「チャチャチャ」で楽器を鳴らした。導入でスムーズに入り、歌いながら手拍子をして興味深く見てくれた子どももいた。

〈子どもの視点から〉

半数以上の子どもが椅子や母親の膝の上で見聴きし、一部の子どもは自分の遊びを続けていた。これは普段の様子と大きくは変わらない姿である。導入の「知っている楽器は何か」の問かけには集中が難しい子どももいたが、ピアノの音と共に絵本が開かれると、そのような子ども達も含めて、真剣に見入る姿が多く、中にはフルートを吹く指の動きをみて、手拍子を行ったりする子どももいた。

〈保護者の視点から〉

印象的な点:①音楽と絵本の一体化、②しかけや素材が魅力的、③子どもが知っている歌で、リズムがゆったり、④歌が上手、子ども達の様子:大半が真剣に見ており、体でリズムを取ったり、一緒に歌ったりする姿が見られ、普段は集中力が途切れる頃だが集中できた。馴染みのない曲でも聞き入っていた。良い点:①音楽があると興味が増す、②一緒に歌ったりリズムを動かしたりできる、③絵や文字で曲の内容を理解できる、④しかけの部分や色彩が豊か、⑤難しい点:①サイズが大きい方がよい、②テンポはゆっくりが良い、③しかけがシンプルの方が理解しやすい、④長く集中が難しい、⑤歌の意味理解は難しい、⑥動きがあるとよい。

〈保育者の視点から〉

普段から話を聞かせるのが好きな子ども達がとても集中していた。普段はあまり関心がない子どもが、少し離れた場所でも他の遊びをしながら見ていた。しかけが小さいので大きな点で改良の余地があるのではないかと。

4. たんぽぽクラスにおける実践Ⅱと考察

日時:2018年9月25日(火)11:50~12:10

実践者:初等教育学科Cさん「線路はつづくよどこまでも」、Dさん「雨ふりくまのこ」
対象と内容:たんぽぽクラスの子ども(2歳)15名とその保護者15名の前で、導入の話をしてから、ピアノ伴奏に合わせて「歌のしかけ絵本」の歌い聞かせを行った。

◆実践Ⅱの考察

〈実践者の視点から〉

Cさんの絵本は、光る素材・立体的なシールを用いカラフルである。導入で乗り物の話をし、実践では電車のしかけをリズムカルに動かした。想像以上に子ども達が身をのり出してくれた。Dさんの絵本は、水色を基調に、光る素材やビーズを多用して雨を表現した。導入で傘の話をし、実践では、くまの仕草(小川を覗く、水を飲む)も行った。しかけや光る素材を見て子ども達が近づいてきてくれたが、歌は知らないようで、子どもと一緒に歌えるという視点も大事にしたい、と述べた。

〈子どもの視点から〉

男児一人を除き、ほとんどの子どもがござや母親の膝に座った状態で始まる。2曲とも導入の問かけには、積極的に返答する子どももおり、ピアノが始まると、周囲の手拍子に合わせて子ども達も手拍子を始めると、真剣に絵本を見ていた。絵本をよく見たくて、数人の子どもが前に出たり、絵本に触ったりした。

〈保護者の視点から〉

印象的な点:①音楽に合わせて物語が進む、歌ばかりより楽しめる、②しかけや色合い、③知っている曲で歌った、④文字表記の大きさ、⑤子ども達の様子:大半が集中して見ており、しかけに興味を持ち、触る子どももいた。電車の登場に声をあげたり、一緒に歌ったり手を揺らしたり、時々ピアノに注目したりしていた。良い点:①演奏付き、②知っている歌がわかりやすくて楽しい、リズムにのって歌える、③しかけや色合いが鮮やか、文字の大きさ、④遊びたい気持ちを抑えて見たり、興味を引くもので注目できたりした。難しい点:①本の大きさ、②スピードが遅い、③しかけは雨の動きがリアルに分かるように、動きが多いと難しい、④知らない歌だと理解できない、⑤触る時の力加減、⑥歌詞は必要ない。

〈保育者の視点から〉

音楽があることでリズムにのりながら知っている歌と一緒に歌えた。絵のしかけや色合いが鮮やかで、文字の読めない乳児も一緒に楽しめた。しかけの動きが多いと子どもには難しい、知らない歌であると理解できない、触りたくて近づくと力加減が難しいので難に接してしまう。

5. まとめ—2歳児の発達段階に即した表現教材とその有効性—

実践結果により、2歳児は集いへの関心の向け方や理解力に個人差が大きいが、演奏や、立体的で動きのあるしかけにより、興味を持ちやすくなると分かった。絵本から歌を想起しやすくなり、内容を理解できる点でも、教育的効果が大きいと考えられる。一方、しかけが多すぎると注目点が多くなりすぎるため、数や、年齢に合わせた興味を引き出すしかけの内容の検討が必要である。また、文字は年齢と目的に応じて用いるとよいと考えられる。合わせて、2歳児の発達に相応しい曲選びも必要になると考えられる。これまで、歌のしかけ絵本の制作及び実演発表する際に具体的な対象年齢を想定するという視点はなかったが、今後、その点についても考慮していく必要があるだろう。次は、3~5歳児に向けた実践を通して、子どもにとっての表現教材としての有効性、教育効果や意義について、更なる検討を行っていく。



表1. 学生へのインタビュー調査の内容

・研究参加者：本学初等教育学科2年生4名
・調査所要時間：一人あたり20分程度
・内容：
【制作過程において】
①指定された曲集の中から、なぜその曲を選んだのか？
②制作時に、子どもに見せる教材として特に配慮した点はあるのか？
【保育現場での実践(演奏発表)について】
③実践に向けたような点に配慮して練習したか？
④自分の制作物と演奏発表方法の特徴・魅力について
⑤実践を行なった時の子ども達の反応はどうだったか？
⑥実践を行なったような感想を持ったか？課題はあったか？

表2. 保育者へのインタビュー調査の内容

・研究参加者：鎌倉女子大学未就園児たんぽぽクラスの保育者2名
・調査所要時間：実践(演奏発表)後、一人あたり15～20分程度
・内容：
①歌のしかけ絵本の演奏発表を見て印象に残った点
②歌のしかけ絵本の演奏発表を見ていた子ども達の様子はどうか？
③演じている学生の様子はどうか？
④歌のしかけ絵本の教材としての可能性、改善点について、気付いた点

表3. 保護者へのアンケート調査の内容

・研究参加者：実践(演奏発表)を視聴したたんぽぽクラス在籍児の保護者
・調査所要時間：実践(演奏発表)後の約10分程度
・内容：
①歌のしかけ絵本の演奏発表を見て印象に残った点
②歌のしかけ絵本の演奏発表を見て、お子さんの様子はどんな風だったか？
③自宅では、普段お子さんとどのような絵本を読んでいるか？
④歌のしかけ絵本を見て、お子さんにとってどんなところが良かったか？またどんなところが難しかったか？

参考文献

1. 東、薩摩林、山成「保育の表現を豊かにする「歌のしかけ絵本」についての一考察-保育者養成課程における「保育内容 演習表現」の授業実践を通して-」『鎌倉女子大学紀要第25巻』鎌倉女子大学 pp75-88. 2018年3月
2. 無藤、野口、木村『絵本の魅力 その編集・実践・研究』フレーベル館 全396頁 2017年3月
3. 大場牧夫『表現原論』萌文書林 全206頁 2003年5月
4. F.W. アロフ著 畑玲子訳『幼児と音楽』音楽之友社1990年4月
5. 小野恭靖著、子ども歌を学ぶ人のために、世界思想社2007年1月 第1刷 全328頁
6. 大場牧夫著、表現原論 幼児の「あらわし」と領域「表現」、萌文書林2003年5月 第2版4刷 全206頁
7. 山住正己著、子どもの歌を語る 一唱歌と童謡一、岩波新書1994年9月 第1刷 全208頁
8. 板野和彦著、一人一人を大切にユニバーサルデザインの音楽表現、萌文書林2015年8月 初版第1刷

2019年5月4日、5日に第72回日本保育学会が開催され、上記内容でポスター発表を行った。参加者の中には実際に歌のしかけ絵本を手に取りしかけを動かしてみたり、大学の授業としてどのように絵本作りを行っているのかなどの質問を受けたりし、活発な意見交換ができた。学生自らアイデアを工夫して子どものために創作した教材を、子どもの前で実演し、歌のイメージが広がったり、歌う楽しみをみんなで共有したり、また、しかけ絵本を工作のサンプルとして活用できるのは良い取り組みだと評価していただいた。

2. 鎌倉女子大学幼稚部における実践と考察

(1) 年少クラスにおける実践

①実践の概要

◇日時:2019年9月19日(木)

◇場所:鎌倉女子大学幼稚部(青組保育室)

◇実践者:鎌倉女子大学短期大学部2年生2名(Aさん、Bさん)

◇曲目:「森のくまさん」「山の音楽家」

◇対象児童の年齢と人数:年少クラス(3～4歳)

◇保育者の動き:子ども達が集中して実演発表を鑑賞できるように、歌のしかけ絵本や短大生の制作について、発表前にわかりやすくお話された。また、知らない人の発表を子ども達がリラックスして鑑賞できるように言葉かけを通して和やかなムードを作り出していた。

◇実践者の動き:年少クラスが絵本の内容になじみやすいように、手作りの動物クイズを使って子ども達の注目を集めてから、実践発表を行った。

②子ども達の様子(ビデオ撮影より)

- ・動き回ったり、ふざけたりすることなく行儀良く体育座りをしていた。
- ・導入の動物クイズに積極的に参加して、声を揃えて笑顔で応えていた。
- ・真剣な表情で歌のしかけ絵本の画面を見つめながら、大きな声で歌っていた。

- ・しかけが動く場面は、仕掛けを目で追いかけてよく観察していた。

③幼稚園教諭の視点（インタビューより）

【印象に残っている点と子ども達の様子】①くまと女の子が出会うシーンのしかけが忠実に作られており、子ども達も楽しんでた ②導入の動物クイズから子ども達の気持ちは入っていて楽しんでた ③普段から集いで絵本を聞く姿勢は身についており今回の絵本も何が始まるのかと好奇心で見えていた【学生の様子】緊張しながらも笑顔で頑張っており、子ども達も初めての人で真剣に聴いていた。温かい雰囲気子ども達も入りやすかったと思う【しかけ絵本の可能性】同じ曲でも作る人によってもしかけが違い、子どもも大人も楽しく好奇心をくすぐられる。子ども達は細かいところまでは気付けないと思うが、どうなっているのだろうと想像力が養われると感じた【改善点】①歌詞がどのくらい必要か ②どの程度の大きさの絵本がいいのかを検討すると良いのではないかな

④年少クラスにおける実践の様子【写真】



（２）年中クラスにおける実践

①実践の概要

◇日時:2019年9月19日（木）

◇場所：鎌倉女子大学幼稚部（プレイルーム）

◇実践者：鎌倉女子大学短期大学部2年生2名（Cさん、Dさん）

◇曲目：「オバケなんてないさ」「とんでったバナナ」

◇対象児童の年齢と人数：年中クラス（4～5歳）

◇保育者の動き：子ども達が集中して実演発表を鑑賞できるように、歌のしかけ絵本や短大生の制作について、発表前にわかりやすくお話をしていた。また、知らない人の発表を子ども達がリラックスして鑑賞できるように言葉かけを通して和やかなムードを作り出していた。

◇実践者の動き：年中クラスが絵本の内容になじみやすいようになぞなどを出して、子ども達の注目を集めてから実践発表を行っていた。

②子ども達の様子（ビデオ撮影より）

- ・動き回ったり、ふざけたりすることなく行儀良く体育座りをしていた。
- ・真剣な表情で歌のしかけ絵本の画面を見つめながら、大きな声で歌っていた。
- ・しかけが動く場面は、仕掛けを目で追いかけてよく観察していた。

③幼稚園教諭の視点（インタビューより）

【印象に残っている点と子ども達の様子】①『オバケなんてないさ』の間奏でオバケが絵本の世界から飛び出して行ったり『とんでったバナナ』の導入で使われたバナナが、絵本の世界でも登場していたりしたところに子ども達がすごく興味を持っていた ②2曲とも園では歌ったことはなかったが、ほとんどの子ども達が口ずさんでいたのは素敵なしかけ絵本による影響ではないかと思う ③普段はあまり歌を歌わない子どもでも絵があることでどの歌なのかを瞬時にイメージでき、曲の途中から参加したにもかかわらず歌を口ずさんでいた。集団が苦手な子どもでも見ているだけで参加している気持ちになれるところが良い【学生の様子】表情や柔らかさ、声のトーンが子ども達の興味をいかに引き付けるかということに結びつくことだと思うので、導入の笑顔が柔らかくて良かったと思う。歌いながらページをめくり、しかけも動かすので大変であり緊張もしたと思うが、楽しそうに演じると子ども達も、もっと楽しく参加できると思う【歌のしかけ絵本の可能性】新しい歌の歌詞を文字で覚えられない子どもにとって絵と言葉とをリンクさせて覚えられ、楽しく自然に新しい歌に親しみを持てる【改善点】絵本の大きさに対し適切な人数があるので、環境により大きさを変えられると良いのではないかな。

④年中クラスにおける実践の様子【写真】



（３）年長クラスにおける実践

①実践の概要

◇日時:2019年9月19日（木）

◇場所：鎌倉女子大学幼稚部（ホール）

◇実践者：鎌倉女子大学短期大学部2年生2名（Eさん、Fさん）

◇曲目：「にじ」「ハッピーチルドレン」

◇対象児童の年齢と人数：年長クラス（5～6歳）

◇保育者の動き：子ども達が集中して実演発表を鑑賞できるように、歌のしかけ絵本や短大生の制作について、発表前にわかりやすくお話されていた。また、知らない人の発表を子ども達がリラックスして鑑賞できるように言葉かけを通して和やかなムードを作り出していた。

◇実践者の動き：年長クラスが絵本の内容になじみやすいように、絵本の内容について説明したり、絵本制作時のエピソードを話したり、子ども達の注目を集めてから実践発表を行っていた。

②子ども達の様子（ビデオ撮影より）

- ・動き回ったりふざけたりすることなく、行儀良く体育座りをしていた。
- ・真剣な表情で歌のしかけ絵本の画面を見つめながら大きな声で歌っていた。
- ・しかけが動く場面は、しかけを目で追いかけて、よく観察していた。

③幼稚園教諭の視点（インタビューより）

【印象に残っている点と子ども達の様子】①年長児は文字が読めるので文字に集中してしまうのではないかと感じたが、だからと言って歌詞が書いてあれば歌えるというわけでもなく、場面ごとの絵のイメージと歌詞が一致していることで歌いやすくなるのだと感じた。普段歌を歌わないような男児も歌っているのを見て、絵による効果があったのではないかと思った。2曲ともよく知っている曲ではなかったが、歌詞を見たり先生の声に合わせてたりして、何となくうまくできたことで、子ども達も気持ちよく歌えたように思う。②文字に集中していた子どもは、細かいしかけについては後から気付く子どももいて、もっとしかけがわかりやすいといいのか、あるいはなくてもいいか、と感じた ③子ども達は学生を絵本の一部として見ていて、学生の表情や歌い方もすごく大事だと思った。ステージ上だったので緊張したと思うが、緊張したなりの笑顔や空気も感じ取り、お姉さん達が頑張ってくれているという一生懸命さが子ども達にも伝わっていると思った。【歌のしかけ絵本の可能性】①子ども達は絵から歌のイメージがわく。だから歌う時の気持ちの入れ方によって変わってくるので、歌い方の技術ではなく気持ちを育てるという上で意義がある。②見ていて楽しい！というところから歌に親しむこともできる。子ども達が自分で歌いながらしかけができたらもっと楽しい。③年長児は文字に集中してしまっていたが、しかけに集中させたいなら歌詞は補助的に書くくらいでも良いと思う。④初めての曲でこんな歌なのだ、と知ってもらうためにはしかけは大きい方が良いが、歌詞を覚えるためならしかけは小さくなくても良い ⑤強調したい部分や、この歌の大事にしたい部分はどこかなど、この歌を子ども達にどんな風に歌ってほしいかをはっきりさせると作る時のイメージもわくように思った。

④実践の様子【写真】



(4) 全学年の実践を通して：園長先生へのインタビューから

表1 園長へのインタビューとその回答内容の概要

| |
|---|
| 歌のしかけ絵本の演奏発表を見て印象に残った点。 |
| <p>年少：歌詞のイメージが絵を見ることでより広がりやすくなるため、歌にも気持ちが入り、歌いやすくなるのではないかな。</p> <p>年中：自分達が持っているイメージが、絵を見ることでより確実になるのではないかな。「オバケなんてないさ」では、その子なりのオバケのイメージがあるが、しかけ絵本の絵によって限定されてしまう部分が出てくるのではないかな。オバケも多様な絵があってよいし、その方がイメージが広がると感じた。その点を考える余地がある。</p> <p>年長：子ども達が、自分たちも作りたい！、あのよう歌って描いてやってみたい！という方向に気持ちが向いていた。既にペープサート等のお話作りをやっているの、歌でも出来るんだ、という工作のヒントやきっかけ作りにもなっていく。年長になると、自分が演じる側に立った見方が出来るようになる。</p> |
| 歌のしかけ絵本の演奏発表を見ている子ども達の様子はどうかだったか？ |
| <p>年少：自分達が歌っている歌の世界がそこに具体的に再現されている点で、より興味が出ていたため、前のめりになって見ている様子が見られ、楽しさを味わっていた。</p> <p>年中：一つのお話の世界として目の前の絵を見ていて、そこにBGM的に歌が流れているという感じの見方をしていた。</p> <p>年長：「ああいう風にすると面白いしかけになるんだ」とか「虹がどんな風に出てくるのかな？」、「どういう風な絵になって現れるのかな？」という気持ちで見ていた。</p> |
| 演じている学生の様子はどうかだったか？ |
| <p>年少：子ども達が楽しそうに見るため、一緒に楽しい雰囲気の中で演じる気持ちが高まったのではないかな。</p> <p>年中：子ども達の歌い方も力強くなっていったため、学生もより自信をもって、張りきって演じることが出来た。</p> <p>年長：子ども達が歌を上手に歌うし、しかけの仕組みにも反応するので、学生は自分の工夫を受け止めてもらえて嬉しかったのではないかな。ステージ上で演じてもらったので緊張したと思うが、達成感はあったと思う。</p> |
| 歌のしかけ絵本の教材としての可能性、改善点について、気づいた点。 |
| <p>年少：絵が助けになって、より歌が楽しく歌える。イメージがはっきりしてくる。ただ、しかけがあり過ぎるとそちらに気持ちが向いてしまうので、加減が必要。</p> <p>年中：年中の子ども達の中には、年長のような意識のある子もいるし、年少に近い子もいるので、絵に助けられて歌える子もいれば、もう歌はしっかり歌えるよ、という感じの子もいる。そういうわけで年中が1番難しい。こんなものもあるし、こんなものもあるよ、という感じで、バリエーションがある形で見せると良いのではないかな。</p> <p>年長：しかけの面白さに興味を持ち、自分達もやってみようという気持ちになる。自分達で作ることができる歌の絵本、そのような可能性を感じる。年長であれば、ただ見せるだけではもったいなくて、一緒に作ろう！という形が良いのではないかな。『ハッピーチルドレン』なら、「たくさんのハッピーな子どもを描いてね。」と伝えることもできる。</p> |

IV. 研究成果と今後の展望

2018年度は、未就園児たんぽぽクラス（2歳児）において「歌のしかけ絵本」の実演をおこなった。事後の保護者へのインタビューからは、ストーリーを歌いながら絵本を見せることについて「しかけや素材が魅力的」「音楽があるとより興味が持てる」「絵本はもう少し大きい方がよい」「テンポはもう少しゆっくりの方が理解しやすい」「しかけはシンプルな方が理解しやすい」などの回答を頂いた。また日頃の子どもの様子をよく分かっている保育者からは「普段からお話を聞くことが好きな子ども達がとても集中して見ていた」「普段あまり読み聞かせに関心のない子どもも少し離れた場所で他の遊びをしながら見ていた」などの回答を頂き、学生による手作りの「歌のしかけ絵本」の教材としての可能性を確認することができた。乳児向けの「歌のしかけ絵本」を作成する際には、歌と伴奏は穏やかで温かみのある音質が好まれ、テンポは通常の歌唱の時よりゆったりゆっくり演奏

すること、絵本のしかけは数を少なくして動きも多すぎないように配慮することなど、一度に与える情報量が過多にならないよう配慮する必要性が明らかとなった。

2019年度は、鎌倉女子大学幼稚部において実演をおこなった。2018年度と同様に、予め学年ごとでどのような曲を題材にしている絵本が適しているかを現場の先生に伺ってから、その助言をもとに歌のしかけ絵本を選定して実演をおこなった。発表を見た子ども達の様子と終了後のクラス担任及び園長先生へのインタビューから、歌のしかけ絵本は、日常の保育の中で歌っている歌の世界が目の前で再現され、子ども達の感性を刺激して想像力を育むことができる点において評価できることが明らかになった。その際、子どもの年齢や発達段階により、イメージーションの広がり方の質は異なるため、年齢に即した与え方や見せ方があることを念頭に置くことが課題となってくることがわかった。また、知らない歌であってもしかけや小道具に興味を持って鑑賞することができ、歌うことに興味がない子どもや集団の中に入ることが苦手な子どもも少し離れた場所から参加することが可能となり、子ども達の心の状態に沿うことができる受容性のある教材だということもわかった。

今後の課題として、さらに絵によってイメージが固定化されることがないように、それぞれの子どもの発達段階に即したバリエーションのある提示の仕方を工夫することを意識すること、子ども達が自分たちもやってみたいという気持ちになるように意識して絵本制作をできるような指導を学生達に行っていくという方向性で、授業内容を改善・充実させていくとより効果的になると考えている。これまで、保育内容演習表現の授業における歌のしかけ絵本制作は、図工と音楽の合科授業として、保育者養成課程において保育者に必要な資質を向上させる目的でおこなってきた。しかし、今回の2年間の研究を通して、手作りの歌のしかけ絵本が保育の現場で活用可能な子どもの発達段階に即した表現力を養う保育教材としての有効性を多く持つことがあらためて実証できた。歌のしかけ絵本を子ども達の前で実演をすることによって、子ども達にとって、イメージーション豊かな表現に触れる時間がつくり出されたり、歌のしかけ絵本をきっかけにして、子ども達の興味を膨らませる制作の授業へと発展させたりすることができるという発展性を確認できたのである。「図工」「歌」「ピアノ」「言葉」などの教科の枠を超えた保育教材としての可能性を認識することができた。聴覚・視覚の両面から感受する「歌のしかけ絵本」は、学生の表現力と実践力を養うとともに、保育現場における発達段階に即した表現教材、保育者が子どもと一緒に作り上げる表現教材の2つの視点も持つものであるという意識のもとに、更に研究を続けていきたいと考えている。

〈謝辞〉

学生たちが制作した手作りの「歌のしかけ絵本」の実践（演奏発表）の場を提供してくださった鎌倉女子大学幼稚部及びたんぽぽクラスの先生方、たんぽぽクラスの保護者の皆さん、お忙しい中をインタビューにお時間を割いてくださった園長先生、そして園児のみなさんに心から感謝申し上げます。

〈参考文献〉

東ゆかり・薩摩林淑子・山成美穂 2018 保育の表現指導を豊かにする「歌のしかけ絵本」についての一考察 ―保育者養成課程における「保育内容演習表現」の授業実践を通

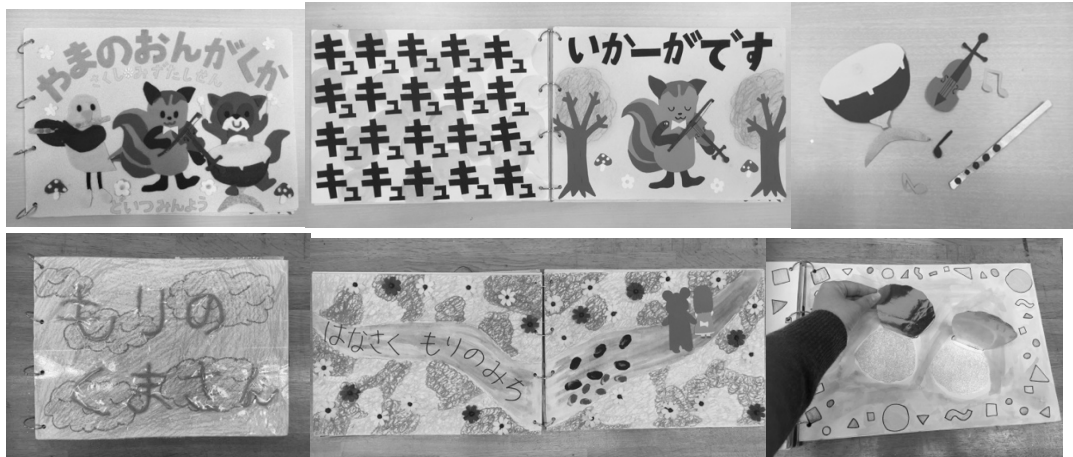
してー 鎌倉女子大学紀要 第25巻 pp.75-88.

東ゆかり・薩摩林淑子・山成美穂・長谷川麻実子 2019 保育の表現指導を豊かにする「歌のしかけ絵本」に関する研究（中間報告）鎌倉女子大学学術研究所報第19巻 pp.47-52.

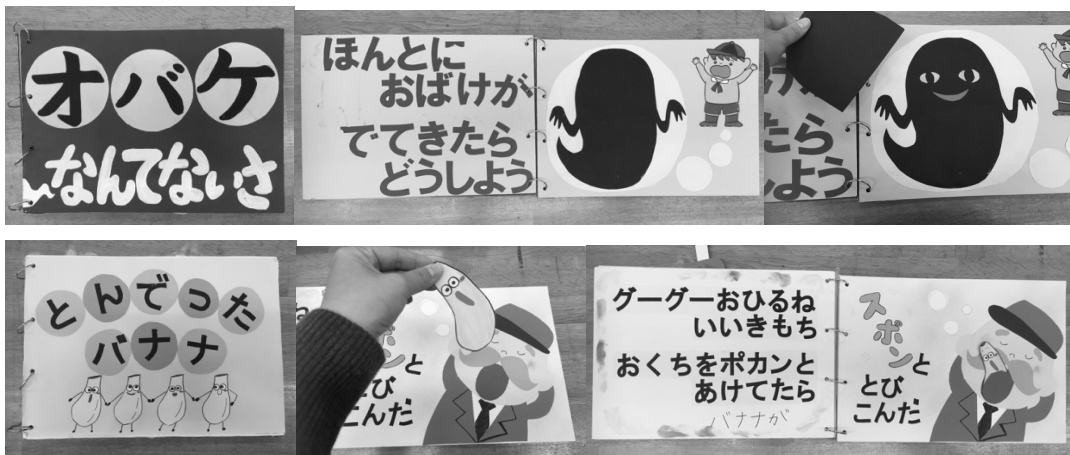
木村充子・相澤千枝子・赤津裕子・東ゆかり・今川恭子・岡澤陽子・小井塚ななえ・越山沙千子・齊木美紀子・新海よしみ・杉原真晃・長井覚子・花原幹夫・村上康子・山原麻紀子・山本直樹・吉永早苗 2019 「領域「表現」に関連する保育者の専門性－養成校の授業研究および実技指導の位置づけの検討－平成30年度保育教諭養成課程研究会研究大会ポスター発表概要 pp.9.

東ゆかり・薩摩林淑子・山成美穂・長谷川麻実子 2019 「歌のしかけ絵本」の表現教材としての有効性に関する研究－保育者養成校の学生による未就園児親子クラスでの実践を事例に－日本保育学会第72回大会ポスター発表 pp.115.

〈参考資料：実践に使用した歌のしかけ絵本〉



年少クラス対象



年中クラス対象



年長クラス対象